

共同運営部門：リハビリテーションセンター

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
センター長 兼リハビリテーション科部長	小野 秀文
副センター長 兼循環器内科主任部長 兼心臓・血管副センター長兼医療安全管理副室長	習田 龍
副センター長 兼リハビリテーション部門長（理学療法士）	津野 光昭

＜関連部署＞

部署名	部署名
リハビリテーション科	リハビリテーション部門

＜特色と概要＞

リハビリテーションセンターは、リハビリテーション科医師2名、理学療法士(PT)26名、作業療法士(OT)12名、言語聴覚士(ST)12名、医療事務2名で構成され運営を行っている。当センターでは、急性期病院の機能特性や地域の役割を考慮して臨床チーム(脳、循環器、整形外科、救命救急、がん、糖尿病、摂食嚥下、周産期、認知機能、小児、廃用)を構成して、臨床業務の管理・運営、教育、研究を各チームで進めると共に、専門的なリハビリを提供している。PTは歩行などの基本動作能力の向上、内部障害を有する患者へのリハビリを実施している。OTは食事動作やトイレ、衣服着脱などIADL動作能力の向上、高次脳機能障害やせん妄、認知機能障害患者へのリハビリ介入を行っている。STは言語機能や摂食機能の障害、コミュニケーション障害に対するの評価やリハビリの提供を行っている。特に安全な早期経口摂取に向けてチーム活動を行っている。当院の特徴として、救命救急センターを併設しており、重症患者に対しても救命センター医師と連携し早期リハビリ介入を行っている。また、当院は脳卒中、急性心筋梗塞などの重症患者を積極的に受け入れており、その患者に対しても入院翌日よりリハビリ介入し、早期離床、早期日常生活への復帰に寄与している。心疾患患者については、退院後外来にて、栄養指導、生活指導と共にエルゴメーターやレジスタンストレーニングを継続して実施し運動能力向上、再発予防に努めている。入院患者への継続したリハビリを提供するために、土・日・祝日にもリハビリを実施している。

＜実績＞

(表1) リハビリテーション科患者数 (人)

年度	外来	
	延べ患者数	1日平均
2021年度	978	4.0
2022年度	919	3.8
2023年度	1,268	5.2
2024年度	1,131	4.7

(表2) 2024年度リハビリテーション部門実績

	新患者(延べ人数)	実施単位数
理学療法部門	56,034名	80,175単位
作業療法部門	27,320名	40,509単位
言語聴覚部門	15,944名	19,387単位
心臓リハ外来	1,039名	3,150単位

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

PT部門では、小児チームにより、哺乳プロトコルが新たに作成され、医師、看護師と協同して、新生児に対する哺乳確立を行った。今後は効果判定を含めて検討を行う。一昨年度立ち上げた周産期チームは、新たに妊娠糖尿病に対する介入を行っている。今後も対象疾患を拡充しながらより一層充実させていく。OT部門では、各患者に応じたADLシートを作成して病室に掲示することで病棟との情報の共有化を図っている。認知症ケアセンターへの参加も継続的に実施しており、集中治療病棟から認知機能低下・せん妄予防に努めている。ST部門では、摂食嚥下支援チームの中心的役割を担い、各病棟に対して各患者の嚥下状態を「食べる時の注意点」を用いて情報共有を行った。また年間100件の嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査を実施し、客観評価に努めた。感染管理については、部門内でアルコール使用の徹底、リハビリ実施時には感染対策室のシャドウにて感染対策方法の確認や研鑽を行った。

今年度の反省点として、集中治療領域、特にEICUとICUのリハビリテーション介入方針に差異が見られたことが挙げられる。また、廃用症候群患者に対するリハビリテーションについて、セラピスト間の方針のばらつきを認めた。上記事項を来年度の課題とし、より発展的なリハビリテーションの提供に努める。

来年度に向けて、新たに、廃用チームを立ち上げた。内科疾患をはじめとした廃用症候群リハビリテーションを一定の基準のもと、介入することを考えている。EICU、ICU入室患者に対し、同質のリハビリテーションを提供するために、集中治療部門の統括リーダーを新たに作り、一括管理ができるようにした。また、脳神経疾患患者に対しても、PT、OT、STの連携を深めるために、統括リーダーを作り、チームワークの向上を図った。このように、質の担保を行いながら、さらなる良質なリハビリテーションの提供を行っていく。